

## 水稲新奨励品種「ひとめぼれ」

京谷 薫・明沢誠二・畠山俊彦・斎藤正一\*・嶽石 進\*\*  
 島田孝之助・山本寅雄・鎌田易尾・  
 大森友太郎・田口光雄・沼澤和紀\*\*\*

## New Recommended Rice Cultiver "HITOMEBORE"

Kaoru KYOYA, Seiji AKESAWA, Toshihiko HATAKEYAMA,  
 Shoichi SAITO, Susumu DAKEISHI, Konosuke SHIMADA,  
 Torao YAMAMOTO, Yasuo KAMADA, Tomotaro OOMORI,  
 Mitsuo TAGUCHI and Kazunori NUMAZAWA

## 目 次

I 緒 言 .....	64	2. 生産力検定 .....	70
II 来 歴 .....	65	3. 施肥反応 .....	72
III 特性概要 .....	66	4. 現地適応性検定 .....	72
IV 選出経過と選出理由 .....	67	5. 特性検定 .....	77
1. 農試における試験経過 .....	67	6. 搗精・品質・食味特性 .....	78
2. 選出理由 .....	67	VII 摘 要 .....	86
V 適地並びに栽培上の注意 .....	67	引用文献 .....	86
VI 試験成績 .....	67	Summary .....	87
1. 特性調査 .....	67		

## I 緒 言

本県には良食味品種として、早生の晩のあきたこまちと中生の晩のササニシキが作付けされている。作付面積比率（平成7年）はあきたこまちが77.5%、ササニシキが11.7%である。

あきたこまちは、良食味で品質も安定しているため、消費地の評判も良い。作付けは年々増加しており、品種の単一化を招いてきている。

ササニシキは本荘由利地域を主に、沿岸部の良食味

品種として作付けされてきた。粘りがやや弱い特徴をもち、その良食味への需要は高い。

ひとめぼれを本県の奨励品種に採用することは、あきたこまちの単一化傾向に対し、中生の晩の新品種導入により、作業競合の回避や気象災害の危険分散が期待できる。また、消費者へは新たな良食味米を提供でき、多様化する消費者の嗜好に応え、米の産地間競争を有利にする。さらに、ササニシキには倒伏や乳白な

どによる品質変動がみられ、栽培には細心の技術を要する。ひとめぼれは倒伏抵抗性がササニシキより強く、品質が安定して良いことから、ササニシキで倒伏しやすい地帯の品質向上が期待できる。

ここでは、ひとめぼれが平成8年から秋田県の奨励品種に採用されたので、その選出経過と特性について報告する。

なお、ひとめぼれの採用にあたっては、この品種を育成した宮城県古川農業試験場をはじめ、宮城県農業センターから特段の助言、指導を得た。また県内各地域農業改良普及センターと現地試験担当農家からは多大の協力をいただいた。ここに記して厚くお礼を申し上げる。

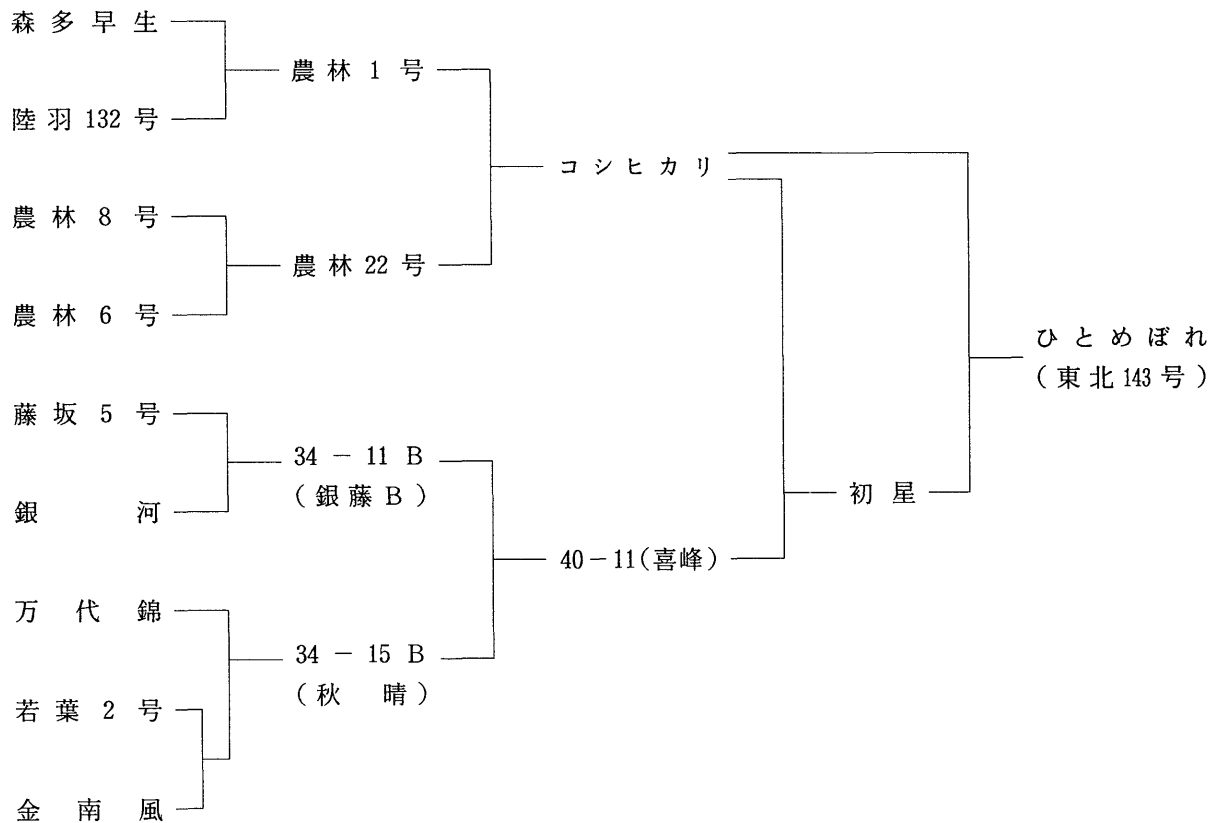
## Ⅱ 来 歴

「ひとめぼれ」は宮城県古川農業試験場において、食味が極良で耐冷性が極強の中生品種の育成を目標として、コシヒカリを母親、初星を父親として昭和57年7月に交配を行い、その後代から育成した系統である。

宮城県古川農業試験場では、昭和63年度から「東北143号」の系統名で各県奨励品種決定試験に配布して

検討を行い、平成4年「ひとめぼれ」の品種名で宮城県が種苗法による品種登録をした。平成8年度の世代はF<sub>16</sub>である。

平成7年5月現在、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、千葉、山梨、静岡、鳥取、大分の各県で奨励品種に採用されている。



第1図 系譜図<sup>1)</sup>

### Ⅲ 特 性 概 要

1) 形態的特性：稈長はササニシキよりやや短い「やや長稈」、穂長はササニシキよりやや長く、穂数はササニシキより少なく、草型は「偏穂数型」である。耐倒伏性はササニシキより強く「中」、短芒がやや少程度あり、ふ先色は黄白である。

2) 生態的特性：出穂期はササニシキより1～2日遅いが、成熟期はササニシキより1日程度早い。いもち病真性抵抗性遺伝子型は「pi-i」と推定され、穂い

もち抵抗性は「やや弱」である。白葉枯病抵抗性はササニシキ並の「やや弱」である。障害型耐冷性はササニシキより明らかに強く、「極強」である。穂発芽性はササニシキより明らかに難の「難」である。収量性はササニシキ並。

3) 品質・食味：玄米外観品質はササニシキに優り、食味は育成地等でササニシキを上回った結果が出ている。

第1表 特性一覧表

品 種 名	ひとめぼれ		
系 統 名	東北143号	組合せ	コシヒカリ／初星
特 性	長所： 1. 食味 2. 耐冷性		短所： 1. 籾数が取りにくい
普及見込み面積	3,000ha		
品 種 名	ひとめぼれ	ササニシキ	あきたこまち
編入年次	平8	昭46	昭59
熟 期 草 型	中生晩 偏穂数型	中生晩 穂数型	早生晩 偏穂数型
芒の多少・長短 稈 色 稈 先 色 粒 着 密 度 脱 粒 性	やや少短 黄白 黄白 やや疎 難	稀短 黄白 黄白 中 難	極少短 黄白 黄白 中 難
葉いもち耐病性 穂いもち耐病性 白葉枯耐病性	やや弱 (i) やや弱 やや弱	弱 (a) 弱 やや弱	やや弱 (a, i) やや弱 やや弱
耐倒伏性 耐冷性(障害型) 穂発芽性	中 極強 難	弱 中 易	中 中 やや難
品 質 食 味	上の中 上の上	上の下 上の上	上の中 上の上
試験場所	本場		
出穂期(月日)	8. 9	8. 8	8. 4
成熟期(月日)	9. 19	9. 20	9. 13
稈 長 (cm)	80.1	81.3	80.9
穂 長 (cm)	17.9	17.3	17.3
穂 数 (本/m <sup>2</sup> )	497	580	467
倒 伏 (0～5)	0.9	2.7	1.1
収 量 (kg/a)	62.0	62.2	57.7
同上対ササニシキ収量比	100	100	93
千 粒 重 (g)	21.8	20.3	21.1
品 質 (1～9)	2.9	4.4	2.6

注) 奨励品種決定調査標肥区、平元～4年農試本場における成績

## IV 選出経過と選出理由

### 1. 農試における試験経過

昭和63年から奨励品種決定試験に供試し、平成3年から4年にかけて現地試験にも供試した。その結果、品質や耐冷性についてはササニシキを上回り、食味については同等で収量性、病害抵抗性、耐倒伏性についてはササニシキを特に上回る特性ではないという結果が出ていた。

また、その当時、由利管内ではひとめぼれについて関心が薄かったこともあり、平成4年をもって調査を終了していた。

しかし、その後、ササニシキの市場での価格低迷傾向のため、他県のササニシキ地帯でひとめぼれへの転換傾向があり、同じササニシキ地帯の由利地区を主体に、ひとめぼれの作付けが増えてきた。

平成7年には由利地区で665ha（地区の6%）作付けされており、全県を合わせると約900haとなった。

一方、JAグループでは、新食糧法を視野に入れた

「あきた米戦略」の中で、主食用銘柄3品種（あきたこまち、ササニシキ、ひとめぼれ）の作付けを70%にする方針を決定するとともに、由利地区農協協議会（組合長会）及び農協中央会、経済連ではひとめぼれを奨励品種に採用するよう県に対し強く要請した。

農業団体の要望により、食糧事務所では平成7年産米から自主流通米向け品種として、仕分け品種に認定した。

### 2. 選出理由

ササニシキに比べ、耐倒伏性が強く、障害型耐冷性について明らかに強く「極強」である。

約900ha作付けされているがその種子は正規のルートで入手されたものでなく、放置すると秋田県産米ばかりでなく、他県のひとめぼれにも迷惑をかけることになる。正規に原原種、原種を入手するためには秋田県で奨励品種に採用する必要がある。

## V 適地並びに栽培上の注意

栽培適地は、障害型耐冷性は強いがいもち病抵抗性が強くない点や熟期が「中生の晩」である点から「海岸平坦部」である。栽培上の注意点はつぎのとおりである。

1) 種子の休眠性が強いので、種子予措に留意する。

2) いもち病抵抗性はササニシキに優る程度で強くないので、あきたこまち・ササニシキに準じて適期防除に努める。

3) 耐倒伏性はササニシキより強いが、倒伏や品質低下の原因となる多肥栽培は避ける。

## VI 試験成績

### 1. 特性調査

苗はあきたこまち同様伸び難く、葉色はあきたこまちよりはやや淡い。本田では最高分けつ期、あきたこまちより分けつ多く、葉色やや淡い。出穂はあきたこまちより5日程度遅く、ササニシキ並の中生の晩であ

る。成熟期はササニシキより1日程度早い。

穂相は、ササニシキ、あきたこまちより2次枝梗粒数が少なく、粒着は1次枝梗に依存している。芒は短芒がやや少程度ありふ先色は黄白である。

## 1) 苗代での生育

第2表 苗代での生育

(秋田農試)

年次	品種名	苗代期観察					田植時調査			
		苗立	苗伸	葉色	葉垂	葉幅	草丈	葉数	茎数	乾物重
平成元	東北143号	上上	やや短	やや濃	中	中	12.7	2.5	1.0	0.80
	あきたこまち	上上	やや短	やや濃	やや直	中	12.8	2.6	1.0	0.91
	キヨニシキ	上上	やや短	やや濃	やや直	中	13.7	3.1	1.0	0.96
	ササニシキ	上上	中	やや濃	やや垂	中	13.3	2.9	1.0	0.83
平成2	東北143号	上上	中短	中淡	直	中	13.2	3.3	1.0	1.30
	あきたこまち	上上	中短	中濃	直	中	13.4	3.3	1.0	1.17
	キヨニシキ	上上	中	中濃	直	中	13.8	3.9	1.0	1.27
	ササニシキ	上上	中	中	中垂	中	14.7	3.9	1.0	1.52
平成3	東北143号	良	中	中	やや垂	中	12.6	3.6	1.0	1.30
	あきたこまち	良	中	やや濃	中	中	11.5	3.3	1.0	1.17
	キヨニシキ	良	中	やや濃	中	中	14.5	4.3	1.0	1.46
	ササニシキ	良	中	中	やや垂	中	14.2	4.1	1.5	1.45
平成4	東北143号	良	中	中	中	中	10.6	2.7	1.0	0.84
	あきたこまち	良	中	中	中	中	10.5	2.4	1.0	0.75
	キヨニシキ	良	中	やや濃	中	中	14.3	3.1	1.0	1.15
	ササニシキ	良	中	やや淡	中	中	12.6	3.0	1.0	0.95
平均	東北143号	良	中	中	中	中	12.3	3.0	1.0	1.06
	あきたこまち	良	中	やや濃	やや直	中	12.1	2.9	1.0	1.00
	キヨニシキ	良	中	やや濃	やや直	中	14.1	3.6	1.0	1.21
	ササニシキ	良	中	中	やや垂	中	13.7	3.5	1.1	1.19

乾物は苗100本の乾物重(g)

## 2) 本田での生育

第3表 最高分けつ期の生育

(秋田農試)

年次	品種名	観 察					標 肥	
		草丈	茎数	葉色	葉幅	葉垂	草丈 cm	茎数本/m <sup>2</sup>
平成元	東北143号						41.1	564
	あきたこまち						45.3	599
	キヨニシキ						46.0	539
	ササニシキ						31.2	752
平成2	東北143号	中短	中	中	中細	中	56.1	610
	あきたこまち	中短	少	中濃	中	中直	56.6	498
	キヨニシキ	中	中	中	中	直	57.7	553
	ササニシキ	中短	多	中	中細	中	57.1	708
平成3	東北143号	中	中多	中濃	中細	直垂	63.8	784
	あきたこまち	中短	中	濃	中細	直	66.0	643
	キヨニシキ	中	中多	中	中	中	68.7	756
	ササニシキ	中	多	淡	中細	直中	67.1	915
平成4	東北143号	中	やや多	中	中	中	46.9	903
	あきたこまち	中	やや少	やや濃	やや細	中	50.5	723
	キヨニシキ	中	中	中	中	中	49.1	712
	ササニシキ	やや短	やや多	中	やや細	中	48.6	1007
平均	東北143号	中	やや多	中	やや細	中直	52.0	715
	あきたこまち	中短	やや少	やや濃	やや細	中直	54.6	616
	キヨニシキ	中	中	中	中	中直	55.4	640
	ササニシキ	中短	多	やや淡	やや細	中直	51.0	846

第4表 成熟期観察

(平成3年 秋田農試)

品 種 名	稈		止葉直立	粒着密度	穂軸抽出	稈先色	芒	
	細 太	剛 柔					多 少	長 さ
東北143号	中	中	中	中	やや短	黄白	少	極短
あきたこまち	やや太	やや剛	中	中	やや短	黄白	やや少	短
キヨニシキ	やや太	中	中	やや密	中	黄白	やや多	短
ササニシキ	中	やや柔	やや垂	やや密	中	黄白	少	極短

## 3) 穂 相

第5表 穂相調査<sup>1)</sup>(育成地)

年次	施肥	系 統 名 または 品 種 名	穂軸の 抽出度 (cm)	穂 長 (cm)	一穂粒数 (粒)	穂長1cm 当り粒数 (粒)	枝 梗 数		枝梗別粒数割合 (%)	
							1次	2次	1次	2次
1989	標肥	東北143号	7.71	18.3	89.3	4.88	9.6	12.1	60.2	39.8
		ササニシキ	5.81	17.5	104.3	5.96	10.1	15.9	51.9	48.1
		トヨニシキ	6.71	18.3	94.2	5.15	11.8	10.5	70.8	29.2
	多肥	東北143号	8.06	19.0	87.2	4.59	9.2	12.6	58.9	41.1
		ササニシキ	7.90	18.0	96.3	5.35	8.4	15.6	51.8	48.2
		トヨニシキ	7.68	18.6	95.8	5.15	10.7	12.2	62.2	37.8
1990	標肥	東北143号	5.25	17.2	75.3	4.38	8.6	9.4	65.2	34.8
		ササニシキ	5.98	17.0	93.6	5.51	9.1	15.3	53.6	46.4
		トヨニシキ	5.37	16.5	70.8	4.29	9.1	8.0	69.8	30.2
	多肥	東北143号	6.50	17.9	77.9	4.36	8.6	10.1	62.6	37.8
		ササニシキ	6.97	17.6	103.7	5.90	9.7	16.6	51.0	49.0
		トヨニシキ	6.57	18.5	95.8	5.18	10.1	13.0	60.3	39.7

注：平成2年生産力検定圃場産、稈長順上位5本、2株、計10本測定。

概評：ササニシキに比較して穂長はやや長く、一穂粒数は少なく、粒着密度は低く、二次枝梗は少ない。穂軸の抽出度はササニシキ並みである。

## 4) 玄米の特性

第6表 玄米粒径調査(秋田農試)

(単位：mm)

年 次	品 種 名	長 さ	幅	厚 さ	大 小		形 状	
					長さ*幅	判 定	長さ/幅	判 定
平成2年	東北143号	5.08	2.92	2.06	14.83		1.74	
	あきたこまち	5.07	2.85	2.03	14.45		1.78	
	キヨニシキ	4.98	2.93	2.07	14.59		1.70	
	ササニシキ	5.02	2.87	2.02	14.41		1.75	
平成3年	東北143号	5.11	2.92	2.12	14.90		1.75	
	あきたこまち	5.11	2.82	2.06	14.40		1.81	
	キヨニシキ	5.08	2.83	2.06	14.40		1.80	
	ササニシキ	4.90	2.74	2.00	13.40		1.79	
平 均	東北143号	5.10	2.92	2.09	14.87	中	1.75	中
	あきたこまち	5.09	2.84	2.05	14.43	中	1.80	中
	キヨニシキ	5.03	2.88	2.07	14.50	中	1.75	中
	ササニシキ	4.96	2.81	2.01	13.91	やや小	1.77	中

注) 判定は種苗特性分類基準による。

第7表 玄米の粒厚別分布<sup>1)</sup>

(重量割合：%)

試験地 (年次)	栽培 条件	系統名 または 品種名	2.2mm	2.2mm	2.1mm	2.0mm	1.9mm	1.8mm	1.7mm	1.9mm
			以上	と 2.1mm	と 2.0mm	と 1.9mm	と 1.8mm	と 1.7mm	未満	以上
育成地 (1989)	標肥	東北143号	2.6	35.8	45.3	7.6	3.9	2.4	2.4	91.3
		ササニシキ	0.4	8.4	64.1	12.9	5.5	3.7	5.0	85.8
		トヨニシキ	1.5	44.0	43.2	5.3	2.2	1.5	2.3	94.0
(1990)	標肥	東北143号	15.0	49.6	24.9	7.0	2.3	1.0	0.2	96.5
		ササニシキ	2.7	30.5	46.2	14.1	4.0	2.2	0.3	93.5
		トヨニシキ	6.8	45.6	35.2	8.8	2.6	0.9	0.1	96.4
岩手 県南 (1990)	標肥	東北143号	25.8	39.7	25.4	6.6	1.7	0.7	0.1	97.5
		ササニシキ	4.5	25.7	46.9	16.8	4.4	1.3	0.2	93.9
		チヨホナミ	10.1	35.7	41.4	10.1	2.1	0.5	0.1	97.3
		あきたこまち	11.5	28.1	42.4	15.3	2.2	0.5	0.0	97.3
	多肥	東北143号	18.4	34.9	32.9	9.7	2.7	1.2	0.2	95.9
		ササニシキ	3.0	19.6	46.7	21.0	6.3	3.1	0.3	90.3
		チヨホナミ	9.0	35.0	38.6	11.7	3.8	3.8	1.5	94.3
		あきたこまち	7.2	26.0	43.4	17.6	4.5	1.1	0.2	94.2
宮城 農セ (1990)	標肥	東北143号	37.8	37.4	19.4	3.9	0.9	0.3	0.4	98.4
		ササニシキ	7.6	34.6	38.9	12.6	3.4	1.4	1.5	93.7
		サトホナミ	29.4	38.3	23.0	6.8	1.7	0.4	0.4	97.5
福島 本場 (1990)	作況	東北143号	0.6	14.4	39.7	30.4	11.1	1.6	2.2	85.1
		ササニシキ	0.0	3.4	25.9	43.2	16.8	3.0	7.0	73.2
		初 星	1.4	39.4	38.4	14.5	4.7	0.7	0.9	93.7
		コシヒカリ	0.0	4.8	30.2	45.2	16.1	1.8	1.9	80.2

注) 育成地は生産力検定試験・標肥区、岩手県南及び宮城県農業センターは奨励品種決定調査、福島農試は作況調査圃場の材料、玄米200gを5分間縦目段ふるい2反復の成績。

## 2. 生産力検定

収量はあきたこまちに比べて年次変動が少なく、4年間の平均収量はあきたこまちとササニシキの間である。

第8表 昭和63年奨励品種決定予備試験

年次	系統名または 品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	最高莖数 (本/㎡)	稈 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	有効莖歩合 (%)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	玄米品質 (1-9)	玄米千粒重 (g)
63年	東北143号	8.14	9.25	873	72.0	524	60.0	0.3	56.9	3.0	20.7
	あきたこまち	8.10	9.20	733	74.6	478	65.2	0.0	52.7	3.0	19.7
	キヨニシキ	8.13	9.24	700	74.9	447	63.9	0.0	60.6	3.0	20.3
	ササニシキ	8.13	9.26	1089	73.8	587	53.9	1.8	56.1	5.0	19.3

第9表 平成元-4年奨励品種決定本試験(標肥)

年次	系統名または 品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	最高莖数 (本/㎡)	稈 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	有効莖歩合 (%)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	玄米品質 (1-9)	玄米千粒重 (g)
平成元年	東北143号	8.9	9.25	564	75.3	333	59.0	0.6	60.6	1.3	22.1
	あきたこまち	8.5	9.14	599	75.0	457	76.3	0.0	61.4	2.0	21.9
	キヨニシキ	8.6	9.20	539	68.9	387	71.8	0.0	55.5	3.7	22.7
	ササニシキ	8.9	9.27	752	74.0	532	70.7	1.0	61.9	4.0	20.8
平成2年	東北143号	8.8	9.19	610	82.0	494	81.0	1.8	62.8	3.0	22.3
	あきたこまち	8.4	9.16	498	79.0	410	82.3	1.0	55.6	3.3	21.4
	キヨニシキ	8.5	9.19	553	76.5	440	79.6	1.5	63.3	3.7	21.1
	ササニシキ	8.8	9.18	708	81.1	542	76.6	4.0	64.0	5.0	20.4
平成3年	東北143号	8.8	9.13	784	82.6	530	67.6	0.0	59.9	1.3	21.2
	あきたこまち	8.1	9.9	643	85.2	479	74.5	0.7	48.9	1.0	19.8
	キヨニシキ	8.3	9.14	756	83.4	526	69.6	0.3	61.2	1.3	20.8
	ササニシキ	8.5	9.16	915	87.5	606	66.2	2.7	60.7	3.3	19.3
平成4年	東北143号	8.11	9.20	903	80.6	629	69.7	1.0	64.5	5.8	21.7
	あきたこまち	8.5	9.14	723	84.4	521	72.1	2.5	65.0	4.0	21.2
	キヨニシキ	8.7	9.16	712	78.3	486	68.3	1.0	67.1	4.0	21.9
	ササニシキ	8.9	9.18	1007	82.6	638	63.4	3.0	62.3	5.3	20.8
元-4 平均	東北143号	8.9	9.19	715	80.1	497	69.4	0.9	62.0	2.9	21.8
	あきたこまち	8.4	9.13	616	80.9	467	75.8	1.1	57.7	2.6	21.1
	キヨニシキ	8.5	9.17	640	76.8	460	71.8	0.7	61.8	3.2	21.6
	ササニシキ	8.8	9.20	846	81.3	580	68.5	2.7	62.2	4.4	20.3

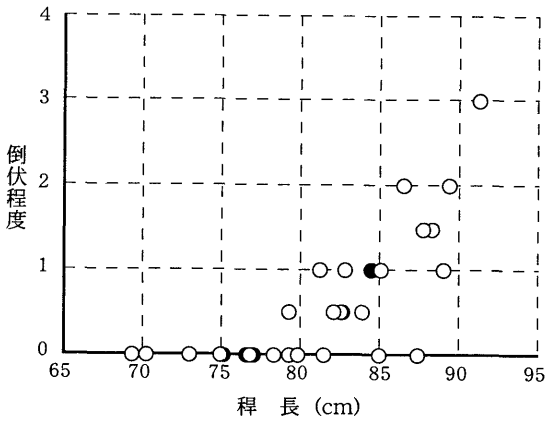
第10表 平成元-4年奨励品種決定本試験(多肥)

年次	系統名または 品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	最高莖数 (本/㎡)	稈 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	有効莖歩合 (%)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	玄米品質 (1-9)	玄米千粒重 (g)
平成元年	東北143号	8.9	9.27	718	79.1	534	74.4	1.2	64.0	3.3	22.2
	あきたこまち	8.5	9.14	623	77.4	473	75.9	0.0	69.6	3.0	21.5
	キヨニシキ	8.6	9.20	605	73.9	417	68.9	0.0	67.2	3.7	22.3
	ササニシキ	8.8	9.29	871	78.6	562	64.5	2.4	67.9	3.7	21.0
平成2年	東北143号	8.8	9.24	615	84.6	496	80.7	0.0	63.8	3.7	21.7
	あきたこまち	8.3	9.18	557	80.2	455	81.7	1.5	60.4	2.0	20.9
	キヨニシキ	8.6	9.19	582	78.3	465	79.9	2.0	65.0	3.7	21.4
	ササニシキ	8.6	9.26	796	82.0	562	70.6	4.0	64.3	5.7	20.4
平成3年	東北143号	8.8	9.16	803	86.2	577	71.9	1.8	57.9	4.0	20.8
	あきたこまち	8.2	9.10	684	88.8	504	73.7	1.8	52.3	2.7	18.9
	キヨニシキ	8.3	9.14	771	82.6	524	68.0	1.2	61.9	3.0	20.8
	ササニシキ	8.6	9.17	946	86.9	633	66.9	3.2	58.7	4.3	19.1
平成4年	東北143号	8.10	9.24	879	84.8	636	72.4	2.5	61.1	5.8	21.3
	あきたこまち	8.6	9.20	740	91.9	533	72.0	4.3	61.5	4.3	20.5
	キヨニシキ	8.7	9.21	817	84.3	522	63.9	3.3	63.8	5.0	21.6
	ササニシキ	8.9	9.23	972	89.3	694	71.4	4.3	57.9	4.8	21.1
元-4 平均	東北143号	8.9	9.23	754	83.7	561	74.4	1.4	61.7	4.2	21.5
	あきたこまち	8.4	9.16	651	84.6	491	75.5	1.9	61.0	3.0	20.5
	キヨニシキ	8.6	9.19	694	79.8	482	69.5	1.6	64.5	3.9	21.5
	ササニシキ	8.7	9.24	896	84.2	613	68.4	3.5	62.2	4.6	20.4

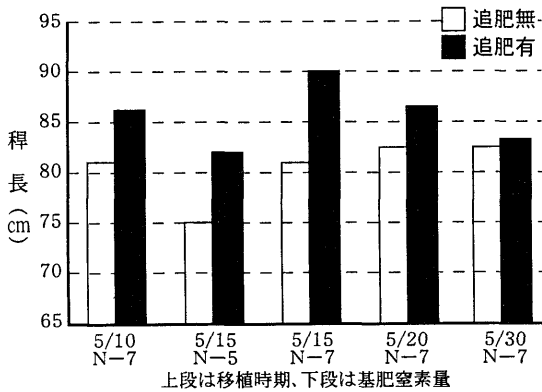


3. 施肥反応

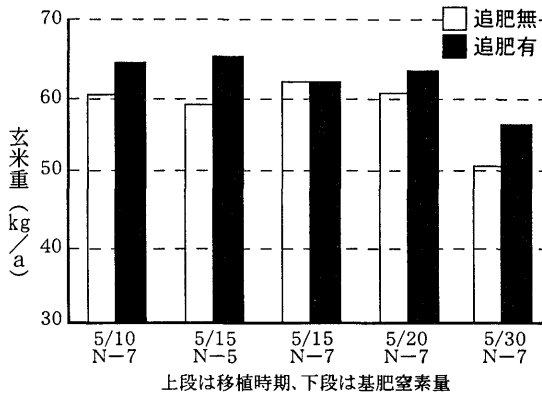
稈長80cm以上で倒伏がめだつことなどから基肥はあきたこまち並の10 a 当たり窒素5 kg程度とし、草丈、葉色をみながら幼穂形成、減数分裂の各期に追肥を組み合わせる。



第2図 稈長と倒伏程度<sup>10)</sup>



第3図 幼穂形成期の窒素追肥と稈長<sup>10)</sup>

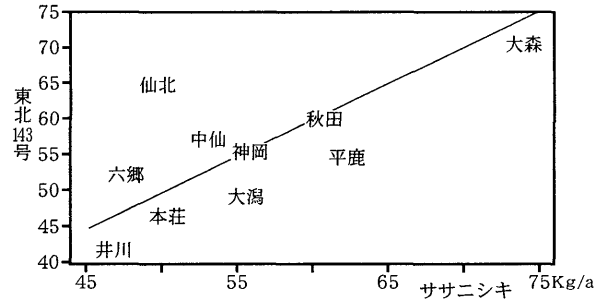


第4図 幼穂形成期窒素追肥と玄米収量<sup>10)</sup>

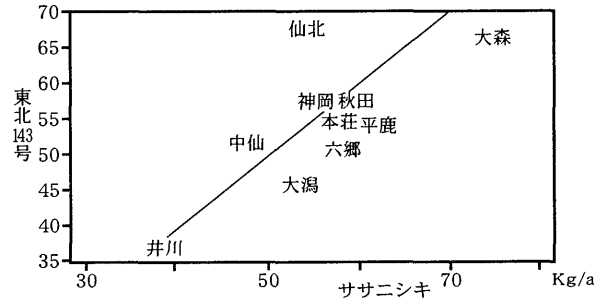
4. 現地適応性検定

県内平坦部で作付けできる。成熟期はササニシキ並に遅いので山間・高冷地では十分登熟できない危険がある。

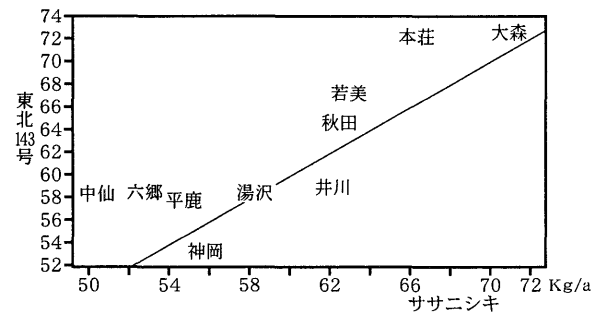
1) 奨励品種決定現地調査



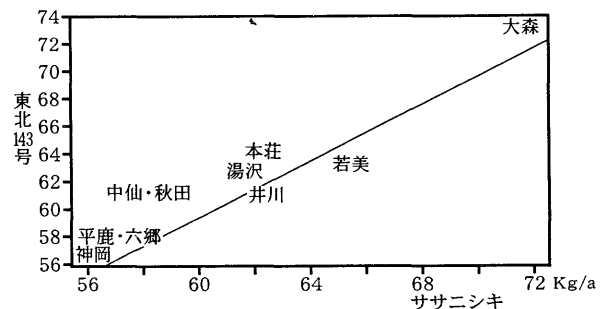
第5図 地域別玄米収量(平成3年 標肥)



第6図 地域別玄米収量(平成3年 多肥)



第7図 地域別玄米収量(平成4年 標肥)



第8図 地域別玄米収量(平成4年 多肥)

第11表 平成3年奨励品種決定現地調査(標肥)

品 種	場 所	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	品 質 (1-9)	千粒重 (g)
東北143号	井川	8.7	9.29	77.8	17.0	410	0.0	41.4	3.0	21.4
あきたこまち	井川	8.3	9.17	83.7	17.1	378	0.0	36.7	2.0	19.9
キヨニシキ	井川	8.5	9.22	80.1	16.6	373	0.0	41.3	2.5	20.8
ササニシキ	井川	8.8	9.29	80.2	16.5	483	0.0	46.8	3.0	19.7
東北143号	大 潟	8.9	9.26	80.4	18.1	433	1.0	49.4	2.5	20.6
あきたこまち	大 潟	8.3	9.17	84.7	18.3	357	2.0	43.5	2.5	19.5
キヨニシキ	大 潟	8.5	9.22	81.0	17.9	374	2.0	54.3	3.0	20.4
ササニシキ	大 潟	8.8	9.26	83.3	18.4	444	4.0	55.0	4.0	19.2
東北143号	若 美	8.13	9.27	81.6	18.1	448	0.0	59.9	4.0	21.1
あきたこまち	若 美	8.6	9.17	82.1	17.9	382	0.0	61.0	2.5	20.2
キヨニシキ	若 美	8.12	9.28	81.0	17.7	444	0.0	64.5	3.5	21.2
東北143号	本 荘	8.5	9.17	67.7	17.0	456	0.0	46.6	2.5	21.0
あきたこまち	本 荘	8.1	9.13	70.9	16.3	438	0.0	42.9	2.5	19.8
キヨニシキ	本 荘	8.2	9.15	68.9	16.5	419	0.0	44.8	3.0	20.5
ササニシキ	本 荘	8.4	9.17	69.0	16.8	530	0.5	49.9	3.0	19.4
東北143号	神 岡	8.9	9.28	79.1	16.3	541	2.0	55.1	2.5	21.5
あきたこまち	神 岡	8.4	9.18	84.0	16.0	488	0.0	56.2	3.5	20.0
キヨニシキ	神 岡	8.7	9.23	78.0	15.5	456	0.0	56.2	2.5	21.4
ササニシキ	神 岡	8.8	9.27	83.4	16.5	546	3.0	55.8	5.5	19.8
東北143号	仙 北	8.5	9.23	87.1	18.9	580	5.0	65.1	6.0	21.6
あきたこまち	仙 北	8.2	9.14	91.4	18.0	543	4.0	60.8	3.0	20.2
キヨニシキ	仙 北	8.4	9.22	85.0	18.2	470	4.0	66.2	4.0	21.5
ササニシキ	仙 北	8.5	9.23	91.5	18.8	556	5.0	49.7	7.5	19.8
東北143号	六 郷	8.13	10.4	79.5	18.3	423	4.0	52.1	2.5	22.2
あきたこまち	六 郷	8.10	9.23	82.7	17.3	399	4.0	49.9	2.5	20.4
キヨニシキ	六 郷	8.10	9.30	77.9	17.5	390	2.0	55.3	2.0	21.4
ササニシキ	六 郷	8.11	10.1	82.7	18.6	449	4.0	47.7	4.0	21.4
東北143号	中 仙	8.6						57.0	3.0	21.9
あきたこまち	中 仙	8.2						52.7	3.5	20.4
キヨニシキ	中 仙	8.6						58.5	2.0	21.7
ササニシキ	中 仙	8.10						53.2	5.0	20.1
東北143号	大 森	8.4	9.21	79.8	17.6	558	1.0	70.6	3.0	21.8
あきたこまち	大 森	8.1	9.14	82.1	18.3	415	1.0	63.5	4.0	20.6
キヨニシキ	大 森	8.2	9.19	79.1	17.1	427	1.0	73.9	4.5	21.3
ササニシキ	大 森	8.4	9.23	82.1	17.4	579	3.0	74.1	4.0	20.2
東北143号	平 鹿	8.9	9.24	78.6	18.1	507	1.0	54.3	2.0	22.9
あきたこまち	平 鹿	8.2	9.13	83.5	17.0	469	2.0	58.0	1.5	21.4
キヨニシキ	平 鹿	8.4	9.21	81.3	17.2	430	1.0	60.9	2.0	22.2
ササニシキ	平 鹿	8.8	9.26	89.1	18.1	566	4.0	62.1	6.0	20.7
東北143号	湯 沢	8.12	9.27	71.9	18.5	535	0.0			
あきたこまち	湯 沢	8.7	9.22	72.6	18.1	436	0.0			
キヨニシキ	湯 沢	8.8	9.23	71.4	18.0	460	0.0			
ササニシキ	湯 沢	8.11	9.26	73.7	18.2	561	0.0			

第12表 平成3年奨励品種決定現地調査(多肥)

品 種	場 所	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	品 質 (1-9)	千粒重 (g)
東北143号	井川	8.8	9.30	78.8	17.6	483	0.0	37.0	3.5	20.8
あきたこまち	井川	8.4	9.18	83.9	16.7	439	0.0	34.2	3.0	19.5
キヨニシキ	井川	8.6	9.23	83.3	16.7	470	0.0	41.4	3.0	20.5
ササニシキ	井川	8.8	9.30	82.7	17.3	527	2.0	39.1	4.0	19.1
東北143号	大潟	8.9	9.26	78.8	18.7	427	1.0	46.1	2.0	20.7
あきたこまち	大潟	8.3	9.17	85.9	18.1	384	3.0	49.0	2.5	19.4
キヨニシキ	大潟	8.5	9.22	81.0	18.6	375	2.0	56.3	3.0	20.5
ササニシキ	大潟	8.9	9.26	85.4	18.5	451	4.0	53.1	5.0	19.2
東北143号	若美美	8.13	9.27	87.6	18.3	526	3.0	59.9	3.0	20.7
あきたこまち	若美美	8.6	9.17	86.4	18.1	489	0.0	61.0	3.0	20.1
キヨニシキ	若美美	8.13	9.28	82.8	17.9	435	2.0	64.5	3.0	21.1
東北143号	本荘	8.5	9.17	74.8	17.6	550	0.0	54.7	1.5	21.4
あきたこまち	本荘	7.31	9.13	77.0	16.7	512	0.0	48.5	3.0	20.0
キヨニシキ	本荘	8.1	9.15	74.6	17.1	450	0.0	52.1	3.5	20.8
ササニシキ	本荘	8.4	9.17	79.9	17.2	579	1.0	57.6	3.5	19.6
東北143号	神岡	8.10	9.28	79.0	17.0	496	2.0	57.4	2.5	21.4
あきたこまち	神岡	8.5	9.19	83.3	16.6	439	0.5	54.4	3.0	20.1
キヨニシキ	神岡	8.7	9.23	79.4	16.7	454	0.5	55.7	3.0	21.4
ササニシキ	神岡	8.9	9.28	82.4	17.3	545	3.0	55.8	6.0	19.5
東北143号	仙北	8.6	9.24	85.8	18.3	509	4.0	67.2	5.0	21.7
あきたこまち	仙北	8.2	9.14	88.0	17.5	479	4.0	59.7	3.0	20.4
キヨニシキ	仙北	8.3	9.21	84.7	16.9	477	3.0	71.6	3.0	21.4
ササニシキ	仙北	8.4	9.22	90.1	18.3	555	5.0	54.1	6.0	19.8
東北143号	六郷	8.13	10.4	74.5	17.2	420	1.0	51.0	1.5	23.1
あきたこまち	六郷	8.10	9.23	77.4	16.9	381	1.0	48.8	2.0	20.8
キヨニシキ	六郷	8.10	9.30	76.7	16.8	347	1.0	51.0	2.0	21.8
ササニシキ	六郷	8.10	9.30	79.1	17.3	402	3.0	58.2	2.0	20.7
東北143号	中仙	8.7						51.4	5.0	21.2
あきたこまち	中仙	8.3						53.0	4.0	20.0
キヨニシキ	中仙	8.7						54.8	3.0	21.7
ササニシキ	中仙	8.10						47.8	5.5	19.4
東北143号	大森	8.6	9.21	77.1	16.3	528	1.0	66.4	3.5	21.2
あきたこまち	大森	8.3	9.15	83.0	17.3	435	1.0	63.1	4.0	20.3
キヨニシキ	大森	8.4	9.19	77.2	17.5	451	1.0	68.8	3.0	21.2
ササニシキ	大森	8.4	9.23	82.2	16.5	579	3.0	74.1	4.0	19.6
東北143号	平鹿	8.9	9.24	78.1	16.8	549	1.0	54.3	2.0	22.7
あきたこまち	平鹿	8.2	9.13	83.4	17.3	428	1.0	54.1	2.5	21.5
キヨニシキ	平鹿	8.4	9.21	80.8	16.5	443	1.0	56.7	2.0	22.0
ササニシキ	平鹿	8.8	9.26	84.2	17.3	541	4.0	61.3	4.0	20.7
東北143号	湯沢	8.12	9.27	66.1	17.9	511	0.0			
あきたこまち	湯沢	8.7	9.22	71.5	18.1	477	0.0			
キヨニシキ	湯沢	8.8	9.23	66.5	17.6	443	0.0			
ササニシキ	湯沢	8.11	9.26	69.8	18.6	503	0.0			

第13表 平成4年奨励品種決定現地調査(標肥)

品 種	場 所	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	品 質 (1-9)	千粒重 (g)
東北143号	井 川	8.9	9.26	83.7	17.7	511	0.0	59.1	3.0	22.6
あきたこまち	井 川	8.5	9.20	86.8	16.8	454	0.0	54.3	3.5	20.8
キヨニシキ	井 川	8.7	9.25	83.9	17.1	459	0.0	58.4	3.5	21.9
ササニシキ	井 川	8.10	10.1	81.6	17.3	557	1.0	62.2	4.0	21.3
東北143号	若 美	8.14	10.1	82.7	18.0	539	0.0	67.5	6.0	22.0
あきたこまち	若 美	8.8	9.19	84.9	17.4	557	0.0	67.1	3.0	21.1
キヨニシキ	若 美	8.10	9.25	78.6	17.0	446	0.0	67.9	3.0	22.3
ササニシキ	若 美	8.12	10.1	85.7	17.3	653	1.0	63.1	4.0	21.0
東北143号	本 荘	8.11	9.20	76.0	17.5	603	0.0	72.7	3.0	23.2
あきたこまち	本 荘	8.6	9.13	75.5	16.3	453	0.0	53.3	2.0	22.6
キヨニシキ	本 荘	8.8	9.18	73.6	16.9	467	0.0	66.0	3.0	22.9
ササニシキ	本 荘	8.10	9.24	76.1	17.2	618	0.5	66.4		22.1
東北143号	神 岡	8.14	9.25	69.0	17.2	537	0.0	53.4	4.5	23.3
あきたこまち	神 岡	8.11	9.20	72.6	16.6	469	0.0	53.6	3.0	22.9
キヨニシキ	神 岡	8.12	9.23	69.9	16.5	434	0.0	54.0	3.5	23.2
ササニシキ	神 岡	8.13	9.30	74.6	16.7	507	0.0	55.8	4.5	22.5
東北143号	六 郷	8.9	9.21	83.4	17.6	566	1.0	58.4	3.5	21.7
あきたこまち	六 郷	8.6	9.21	83.6	16.6	494	1.0	54.7	3.0	21.2
キヨニシキ	六 郷	8.7	9.23	82.2	17.3	514	1.0	60.1	3.0	21.8
ササニシキ	六 郷	8.10	9.23	82.6	17.4	549	4.0	53.1	3.0	20.5
東北143号	中 仙	8.8		79.8	18.4	527	3.0	58.3	5.0	22.4
あきたこまち	中 仙	8.5		81.0	17.2	533	1.0	58.5	3.0	21.3
キヨニシキ	中 仙	8.8		78.4	18.1	451	2.5	60.9	3.0	22.2
ササニシキ	中 仙	8.10		84.3	18.1	566	4.0	50.4	5.0	21.3
東北143号	大 森	8.8	9.26	73.0	18.1	558	0.0	73.1	2.5	23.4
あきたこまち	大 森	8.7	9.20	77.3	17.9	538	0.0	76.1	3.0	22.5
キヨニシキ	大 森	8.7	9.24	73.4	17.7	456	0.0	77.2	3.0	24.1
ササニシキ	大 森	8.7	9.27	78.1	18.4	559	1.5	71.4	3.0	22.2
東北143号	平 鹿	8.16	10.5	76.7	17.4	577	0.5	58.0	4.5	22.0
あきたこまち	平 鹿	8.13	9.28	78.8	16.7	515	0.0	59.9	2.5	21.5
キヨニシキ	平 鹿	8.13	10.1	76.9	16.9	448	0.0	60.6	3.0	22.1
ササニシキ	平 鹿	8.15	10.5	78.7	17.2	552	2.5	54.5	4.0	20.7
東北143号	湯 沢	8.13	9.25	73.5	17.2	629	0.0	58.4	4.0	22.4
あきたこまち	湯 沢	8.8	9.22	73.6	16.7	482	0.0	57.4	3.5	21.8
キヨニシキ	湯 沢	8.9	9.23	72.0	16.3	527	0.0	59.2	3.5	22.4
ササニシキ	湯 沢	8.12	9.25	77.2	16.4	687	0.0	58.4	4.5	21.1
東北143号	山 内	8.20	10.4	69.6	17.1	561	0.0	59.7	5.0	21.9
あきたこまち	山 内	8.16	9.28	69.7	15.6	523	0.0	58.4	6.5	20.8
キヨニシキ	山 内	8.19	10.2	71.6	16.5	469	0.0	62.2	6.5	22.2

第14表 平成4年奨励品種決定現地調査(多肥)

品 種	場 所	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	品 質 (1-9)	千粒重 (g)
東北143号	井川	8.9	9.29	82.2	17.4	453	0.0	61.0	3.5	22.4
あきたこまち	井川	8.5	9.20	84.3	16.8	439	0.0	58.0	3.0	21.1
キヨニシキ	井川	8.8	9.25	82.0	17.5	396	0.0	63.2	3.5	22.3
ササニシキ	井川	8.10	10.1	83.3	17.2	468	1.0	62.4	3.5	20.8
東北143号	若美	8.14	10.1	76.8	18.2	500	0.0	63.3	5.5	22.4
あきたこまち	若美	8.8	9.19	81.5	17.7	512	0.0	65.0	3.0	21.4
キヨニシキ	若美	8.10	9.25	77.0	17.6	428	0.0	63.5	3.5	22.6
ササニシキ	若美	8.12	10.1	80.1	18.1	531	0.0	65.4	4.0	21.3
東北143号	本荘	8.11	9.20	74.7	18.2	573	0.0	63.5	3.0	23.1
あきたこまち	本荘	8.5	9.13	77.4	17.3	486	0.0	60.9	3.0	22.8
キヨニシキ	本荘	8.8	9.18	75.1	17.5	475	0.0	65.0	3.5	23.1
ササニシキ	本荘	8.10	9.24	78.7	18.0	608	1.0	62.1	3.5	22.2
東北143号	神岡	8.14	9.25	75.7	18.2	557	0.0	56.5	5.0	23.2
あきたこまち	神岡	8.11	9.20	76.3	16.7	579	1.0	59.7	3.5	22.8
キヨニシキ	神岡	8.11	9.23	76.5	17.7	433	0.0	58.5	4.0	23.5
ササニシキ	神岡	8.13	9.30	79.5	17.9	528	2.0	56.2	4.0	22.9
東北143号	六郷	8.7	9.23	74.6	18.0	425	0.0	57.5	3.0	22.2
あきたこまち	六郷	8.5	9.20	77.6	17.1	386	1.0	55.2	3.5	21.3
キヨニシキ	六郷	8.6	9.22	77.6	16.9	429	0.0	57.0	3.0	22.4
ササニシキ	六郷	8.8	9.23	77.9	17.2	520	3.0	56.4	3.5	21.1
東北143号	中仙	8.8		78.5	18.8	556	4.0	61.0	4.0	22.8
あきたこまち	中仙	8.5		82.9	17.8	542	3.0	60.9	3.0	21.5
キヨニシキ	中仙	8.8		78.5	18.4	442	3.5	61.1	3.5	22.6
ササニシキ	中仙	8.10		82.6	17.8	518	4.5	57.4	4.0	21.7
東北143号	大森	8.7	9.25	73.9	18.6	597	0.0	73.5	3.0	23.6
あきたこまち	大森	8.7	9.21	78.4	17.7	577	0.0	72.4	3.0	22.7
キヨニシキ	大森	8.7	9.24	73.8	18.0	475	0.0	74.9	2.5	23.4
ササニシキ	大森	8.8	9.27	76.9	18.7	569	1.5	72.0	3.0	22.4
東北143号	平鹿	8.15	10.5	74.5	17.5	515	1.0	57.7	4.0	22.4
あきたこまち	平鹿	8.12	9.27	77.0	16.8	481	0.0	56.3	3.0	21.7
キヨニシキ	平鹿	8.11	9.29	74.5	17.5	406	1.0	57.9	3.0	22.3
ササニシキ	平鹿	8.14	10.4	79.6	18.3	499	2.5	56.1	4.5	21.3
東北143号	湯沢	8.13	9.25	75.9	17.1	680	0.0	62.8	4.0	22.6
あきたこまち	湯沢	8.8	9.22	78.8	16.9	559	0.0	62.4	3.5	21.6
キヨニシキ	湯沢	8.9	9.23	76.0	16.7	612	0.0	64.6	3.0	22.3
ササニシキ	湯沢	8.12	9.25	78.4	17.1	786	0.0	61.7	3.0	21.1
東北143号	山内	8.19	10.4	73.1	17.3	584	0.0	62.1	5.0	22.1
あきたこまち	山内	8.17	9.28	73.6	16.4	582	0.0	59.6	4.0	21.0
キヨニシキ	山内	8.17	10.2	74.6	16.6	510	0.0	61.7	4.0	22.3

第15表 平成元年奨励品種決定本試験(標肥)

(大館試験地)

年 度	品 種	出穂期 (月.日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本/㎡)	有効茎 歩合(%)	倒 伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	玄米品質 (1-9)	玄 米 千粒重
元 年	東北143号	8.10	81.4	17.7	461	76.2	2.3	56.8	3.7	23.7
	あきたこまち	8.7	81.1	16.9	425	78.4	2.3	57.8	3.0	23.4
	キヨニシキ	8.7	82.4	17.0	398	63.6	0.3	59.7	4.7	23.4

第16表 平成元年奨励品種決定本試験(多肥)

(大館試験地)

年度	品種	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	有効茎 歩合(%)	倒伏 (0-5)	玄米重 (kg/a)	玄米品質 (1-9)	玄米 千粒重
元年	東北143号	8.11	88.9	18.0	480	73.5	3.7	52.3	7.7	22.9
	あきたこまち	8.9	88.2	17.7	422	76.7	2.7	54.7	6.3	22.9
	キヨニシキ	8.9	84.3	16.9	422	62.6	1.0	57.6	5.7	23.4

## 5. 特性検定

いもち抵抗性は、葉いもちがやや弱～弱でササニシキ並で、あきたこまちやキヨニシキよりも弱い。穂いもちもササニシキよりはやや強く、あきたこまち並のやや弱である。

耐冷性は減数分裂期の低温に対して強く、極強である。

白葉枯耐病性は一般的な、やや弱である。

穂発芽性は、難である。

## 1) いもち耐病性検定

第17表 葉いもち検定結果 (秋田農試)

	発病程度	備考	
平成4年	東北143号	5.4	やや弱～弱、 ササ並
	あきたこまち	3.8	
	キヨニシキ	3.4	
	ササニシキ	4.7	
平成3年	東北143号	6.1	やや弱～弱、 ササ並
	あきたこまち	5.5	
	キヨニシキ	4.3	
	ササニシキ	6.1	
平成2年	東北143号	5.1	やや弱～弱、 ササ並
	あきたこまち	4.1	
	キヨニシキ	4.3	
	ササニシキ	5.1	

第18表 葉いもち・穂いもちの抵抗性比較連絡試験 (東北)<sup>5)</sup>

		葉いもち				穂いもち
		藤坂	古川	大曲	総合	大曲
平成6年	ひとめぼれ	m		m	m	mr
	あきたこまち	m		mr	m	s
	キヨニシキ	m	mr	m	m	mr
	ササニシキ	ms	ms	ms	ms	s
平成5年	ひとめぼれ	mr		mr	mr	m
	あきたこまち	r				ms
	キヨニシキ	m	mr	mr	mr	m
	ササニシキ	ms	ms	m	ms	s
平成4年	ひとめぼれ		ms	m	ms	m
	あきたこまち		m	mr	m	ms
	キヨニシキ		mr	mr	mr	mr
	ササニシキ		ms	m	ms	s
平成3年	ひとめぼれ		ms		ms	ms
	あきたこまち		m	m	m	m
	キヨニシキ		mr	m	m	mr
	ササニシキ		ms	ms	ms	s

## 2) 耐冷性検定

第19表 「ひとめぼれ」耐冷性比較連絡試験(東北)<sup>5)</sup>

	藤坂	古川	総合	
平成6年	ひとめぼれ		D 2	
	あきたこまち	C 5		
	キヨニシキ	D 6		
	ササニシキ			
平成4年	ひとめぼれ		D 2	rr
	あきたこまち	4	B4.5	mr
	キヨニシキ	5	D 6	ms
	ササニシキ	5		m
平成3年	ひとめぼれ		D 2	rr
	あきたこまち	5	C4.5	m
	キヨニシキ	6	C 6	ms
	ササニシキ	6	D 5	ms

## 3) 白葉枯耐病性検定

第20表 白葉枯耐病性検定(育成地)<sup>1)</sup>

系統名または 品種名	発病程度				判定
	1988	1989	1990	平均	
東北143号	4.7	4.8	6.0	5.2	やや弱
初星	5.0	6.5	5.0	5.5	弱
トヨニシキ	4.7	4.5	5.4	4.9	やや弱
ササミノリ	4.4	4.8	5.3	4.8	やや弱
ササニシキ	4.9	4.9	5.1	5.0	やや弱
コシヒカリ	3.2	4.3	4.0	3.8	

注) 止葉展開直後に剪葉接種、0(無病斑)～10(全止葉枯死)

第21表 白葉枯耐病性検定 (山形農試庄内支場, 1989年)<sup>1)</sup>

系統名 または 品種名	1989				1990				総合判定
	発病程度			判定	発病程度			判定	
	出穂期 (月・日)	剪葉接種 (cm)	針接種 (√mm)		出穂期 (月・日)	剪葉接種 (cm)	針接種 (√mm)		
東北143号	8.8	9.4	24	やや弱	8.4	8.3	21.7	やや弱	やや弱
ササニシキ	8.7	8.1	24	(やや弱)	8.6	8.5	17.3	(やや弱)	(やや弱)
キヨニシキ	8.4	9.8	32	弱	8.2	9.5	17.3	やや弱	やや弱
トヨニシキ	8.7	9.8	19	やや弱	8.4	9.2	20.0	やや弱	やや弱
中新120号	8.8	3.2	8	(強)	8.6	4.4	6.8	(強)	(強)
庄内8号	8.9	6.6	11	(やや強)	8.9	4.6	9.9	(やや強)	(やや強)
フジミノリ	7.28	7.4	15	(中)	7.28	6.7	16.4	(中)	(中)
ヒメノモチ	8.3	12.8	33	(弱)	7.31	11.7	25.4	(弱)	(弱)

注) 1. 1989年は8月3日に、1990年は7月26日に第Ⅱ群菌を接種し、それぞれ8月24日、8月20日に調査した。  
2. 発病程度は剪葉接種では剪葉部分からの最大病斑伸展長、針接種では罹病面積の√で示した。  
3. ( ) 内は基準品種

## 4) 穂発芽性検定

第22表 穂発芽検定 (秋田農試)

品種名	発芽率 (%)				判定
	平元	平2	平4	平均	
東北143号	1.0	1.0	23.4	8.5	難
あきたこまち	5.1	34.9	72.4	37.5	やや難
キヨニシキ	41.6	83.6	92.5	72.6	易
ササニシキ	18.4	65.8	52.8	45.7	やや易

判定は稲種苗特性分類基準による。

第23表 穂発芽検定<sup>1)</sup> (育成地)

系統名または 品種名	発芽程度 (0~5)					判定
	1987	1988	1989	1990	平均	
東北143号	2.0	3.0	0.3	2.5	2.0	難
コガネヒカリ	4.0	4.5	2.3	3.0	3.5	中
ササニシキ	4.5	4.5	3.5	4.0	4.1	(やや易)
トドロキワセ	0.5	3.0	1.5	3.5	2.1	(難)
キヨニシキ	5.0	4.5	3.5	4.0	4.3	(易)
トヨニシキ	4.5	4.5	4.3	4.0	4.3	(やや易)
ササミノリ	4.0	4.5	0.5	4.0	3.3	(中)
イナバワセ			2.0	1.0	1.5	(極難)

注) 成熟期の穂を冷蔵後浸水し、25~30℃で発芽させた。発芽程度は、0(無)~5(甚)の範囲で表す。

第25表 搗精試験 (育成地: 適搗精時間による成績, 1990年)

施肥条件	系統名または 品種名	玄米水分 (%)	搗精時間 (秒)	搗精歩合 (%)				胚芽残存 歩合 (%)	白度
				1	2	3	平均		
標肥	東北143号	14.5	70	91.6	91.0	91.1	91.2	6.8	39.8
	ササニシキ	14.5	60	90.8	90.6	90.6	90.7	5.8	38.4
	トヨニシキ	14.6	60	90.5	90.9	90.8	90.7	3.8	37.5
多肥	東北143号	14.5	70	91.3	90.8	90.9	91.0	5.3	39.9
	ササニシキ	14.2	60	90.6	90.8	90.3	90.6	6.3	38.2
	トヨニシキ	14.3	60	91.1	91.1	90.9	91.0	4.1	38.1

注) 1. 搗精試験の統一に関する申し合わせ(昭46)に基づいた。  
2. 搗精にはKettのTP-2型精米機、白度はKett白度計C-300使用  
3. 胚芽残存歩合は200粒調査。

第24表 穂発芽検定<sup>1)</sup> (岩手県農試県南分場1990年)

系統名または 品種名	発芽率 (%)		判定
	3日目	6日目	
東北143号	0.2	33.7	難
ササニシキ	18.1	79.7	(やや易)
トドロキワセ	2.0	74.3	(難)
キヨニシキ	56.6	90.0	(易)
トヨニシキ	21.8	79.1	(やや易)
ササミノリ	4.7	79.3	(中)

注) 成熟期の穂を冷蔵後、1日浸水し、32℃に加熱し発芽させ、発芽初数を調査した。  
判定の ( ) 内は基準品種の評価。

## 6. 搗精・品質・食味特性

玄米外観品質はササニシキより優れ、あきたこまち並である。食味の評価は高く、あきたこまち、ササニシキ並の良食味である。

## 1) 搗精試験

第26表 適搗精度の判定試験<sup>1)</sup> (岩手農試県南分場 1990年)

系統名 または 品種名	水分 (%)	50 秒 搗 精					60 秒 搗 精				
		搗精 歩合 (%)	糠残存 程 度	胚芽 残存 程 度	搗精 程 度	白度	搗精 歩合 (%)	糠残存 程 度	胚芽 残存 程 度	搗精 程 度	白度
東北143号	15.2	91.6	3.5	3.8	否	33.3	91.3	4.4	3.9	可	34.7
ササニシキ	15.1	91.0	3.5	3.8	否	33.8	90.3	4.5	4.0	良	35.2
チヨホナミ	14.9	90.1	4.5	4.3	良	34.3	89.4	4.5	4.5	良	36.1
あきたこまち	15.0	91.0	4.5	2.3	否	34.1	90.6	4.5	4.0	良	36.2

系統名 または 品種名	70 秒 搗 精					80 秒 搗 精				
	搗精 歩合 (%)	糠残存 程 度	胚芽 残存 程 度	搗精 程 度	白度	搗精 歩合 (%)	糠残存 程 度	胚芽 残存 程 度	搗精 程 度	白度
東北143号	90.8	4.8	4.2	良	35.2	90.4	4.9	4.3	良	36.2
ササニシキ	89.8	4.7	4.5	良	36.3	89.1	4.8	4.5	良	37.7
チヨホナミ	88.6	4.8	4.9	良	37.6	88.3	4.9	4.9	良	38.0
あきたこまち	90.0	4.7	4.2	良	37.6	89.6	4.9	4.5	良	38.0

注1) 1.9mm以上玄米を供試、搗精の程度は、糠・胚の残存度を第28表の基準で判定した。

2) 搗精機はKett TP-2型を使用、白度計はKett C-3型白度計を使用。

第27表 適搗精時間による搗精試験 (岩手農試県南分場、1990年)

施肥条件	系統名または 品種名	玄米水分 (%)	搗精時間 (秒)	搗 精 歩 合 (%)				胚芽残存 歩合(%)	白 度
				1	2	3	平均		
標 肥	東北143号	15.2	70	90.6	90.9	91.1	90.9	6.1	34.2
	ササニシキ	15.0	60	90.1	90.4	90.5	90.3	6.3	34.1
	チヨホナミ	14.9	50	89.8	90.3	90.3	90.1	1.0	35.3
	あきたこまち	15.1	60	90.4	90.7	90.8	90.6	6.7	35.5
多 肥	東北143号	14.9	70	90.9	90.8	90.9	90.8	10.8	34.2
	ササニシキ	14.7	60	90.7	90.6	90.5	90.6	6.9	34.1
	チヨホナミ	15.1	50	90.0	90.0	90.0	90.0	2.7	35.8
	あきたこまち	15.2	60	91.0	90.7	90.8	90.8	5.6	35.4

注1) 1.9mm以上玄米、奨励本試験の玄米を供試

2) 胚残存歩合はMG染色による観察、250粒、3反復。搗精はKett TP-2型、白度計はKett C-3型を使用。

第28表 適搗精度の判定基準 (Kett TP-2型の精米について)

糠 の 残 存 度	胚 芽 の 残 存 度
[ 4未満搗精不良、4以上可、4.5以上良 ]	[ 2以下搗精不良、2.5以上可、3以上良 ]
0 : 粒の全面に糠残存 (玄米)	0 : 全粒に胚が残る (玄米のみ)
1 : 粒の全面にまばらに糠残存	1 : 胚は大きなまま約50%の粒に残る
2 : 腹側の溝に線状に残り、ごくまれに粒の表面に糠の 残る粒が見られる	2 : 僅かながら原型をとどめる大きな胚が
3 : 背側溝に線状に糠が残るが、腹側溝には見られない	2.5 : 原型をとどめる胚はほとんど見られない (摺り残 し粒のみ)
4 : 背側溝全長のほぼ1/2糠が残る	3 : 胚は痕跡だけとなるが残る粒多い (50%)
4.5 : 背側溝全長のほぼ1/3糠が残る。	4 : 少量ながら胚痕跡残る (10%)
5 : 背側溝にも糠は残らない	5 : 胚の残存は全く見られない

注) MG染色による観察。



第29表 宮城県農業センターにおける成績

品種名又は 系統名	搗精時間 (秒)	糠付着 程度	胚芽残存 程度	搗精の 程度	搗精歩合 (%)	白度
東北143号	50	4	2.5	可	90.2	37.1
	60	4	3	良	89.9	38.3
	75	4	4	良	89.1	39.6
ササニシキ	50	3	2	不可	90.1	38.4
	60	4	3	良	88.9	39.6
	75	4	4	良	88.1	40.8

注1) 農業センター奨励品種決定調査 標肥栽培、1990年産の1.7mm以上の玄米。  
 2) 搗精にはKettのTP-2型精米機、白度はKett白度計C-300使用  
 3) 糠付着程度及び胚芽残存程度は観察調査し、前ページの適搗精度の判定基準により判定した。200粒調査。

第30表 福島県農試における成績

搗精 時間 (秒)	東北143号			初 星			ササニシキ			コシヒカリ		
	搗精歩合 (%)	白度	胚芽残存 率 (%)	搗精歩合 (%)	白度	胚芽残存 率 (%)	搗精歩合 (%)	白度	胚芽残存 率 (%)	搗精歩合 (%)	白度	胚芽残存 率 (%)
50	91.4	33.7	4.6	90.8	35.0	3.3	91.2	33.7	7.1	91.7	35.3	3.4
60	90.9	34.4	2.2	90.3	36.3	1.2	90.5	34.7	3.6	91.1	36.0	1.9
70	90.3	35.6	1.6	90.0	37.0	1.2	89.7	36.3	1.3	90.7	37.1	0.9
80	89.7	36.7	0.8	89.5	37.5	0.5	89.1	37.4	0.8	90.1	38.3	0.3
90	89.4	37.3	0.2	89.0	38.6	0.4	88.5	37.9	0.5	89.7	38.9	0.0

注1) 奨励品種決定調査、本調査、標準植、1990年産玄米  
 2) \_\_\_\_\_は適搗精時間  
 3) 搗精にはKettのTP-2型精米機、白度はKett白度計C-300使用  
 4) 胚芽残存歩合は200粒調査。

概評：東北143号はササニシキよりも搗精に要した時間はやや長い、搗精歩合はササニシキより高い。胚芽残存歩合はササニシキと同程度である。適搗精時の精米の白度はササニシキ並みである。

## 2) 玄米品質

第31表 玄米観察(秋田農試)

年次	品 種 名	粒形	粒大	粒色	色沢	光沢	活青	死青	乳白	心白	腹白	胴割	胴切	茶米	穂発芽
平元	東北143号	5.0	5.0	5.0	4.7	5.0	1.7	2.7	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0
	あきたこまち	4.7	4.7	5.3	5.3	5.3	2.0	0.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.3
	キヨニシキ	4.0	5.0	5.0	5.3	5.0	1.0	0.3	0.7	0.3	0.7	0.0	0.0	1.3	16.3
	ササニシキ	4.7	4.3	5.3	5.0	4.7	2.7	3.3	4.0	0.0	2.7	0.0	0.0	1.7	0.0
平2	東北143号	中	中	淡褐	や濃	や大	微	無	無	無	少	無	無	微	
	あきたこまち	中	中	淡褐	や濃	や大	微	無	微	無	無	無	無	微	
	キヨニシキ	中	中	淡褐	や濃	や大	少	微	無	無	無	微	無	無	
	ササニシキ	中	や小	淡褐	や濃	や大	や少	微	や少	無	中	無	無	無	
平3	東北143号	や円	や小				4.0	0.0	0.8	2.0	2.4	1.2	0.0	0.0	
	あきたこまち	中	中				0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	19.0	0.0	0.0	
	キヨニシキ	や円	中				0.8	0.0	0.0	0.4	2.4	25.9	0.0	3.2	
	ササニシキ	や細	や小				7.2	3.2	0.0	1.4	9.7	17.2	0.7	0.7	
平4	東北143号	中	中				10.9	2.1	3.3	0.4	0.8	0.0	0.0	0.4	
	あきたこまち	中	中				1.7	2.5	0.8	0.8	2.1	5.4	0.8	4.5	
	キヨニシキ	や円	中				4.3	0.9	2.6	0.4	7.3	15.5	0.0	0.9	
	ササニシキ	中	や小				7.3	3.6	1.2	2.8	6.1	2.4	0.4	2.8	

平成元年の粒形・粒大は種苗特性分類基準、穂発芽は粒数割合(%)、その他は0~5に分級  
 平成3、4年の数字は粒数割合(%)

## 3) 食味官能試験

第32表 秋田農試における食味試験

平成元年6月15日 パネル14名

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	備考
ササニシキ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	生検
東北143号	0.133	0.600*	0.133	0.200	0.333	-0.267	生子

平成3年1月11日 パネル15名

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	備考
あきたこまち	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	生検標肥
東北143号	-0.867**	-0.667**	-0.133	-0.667**	-0.467*	-0.533**	〃

平成6年2月17日 パネル18名

品種名	総合	外観	香り	味	粘り	硬さ	搗精歩合	産地
あきたこまち	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	90.5%	秋田
ひとめぼれ	-0.389	0.056	-0.389	-0.167	-0.111	-0.222	89.6	大曲

第33表 食味連絡試験の食味総合評価<sup>6)</sup>

品 種	青森	藤坂	岩手	県南	古川	大曲	庄内	福島	秋田	平均	92年	91年
ササニシキ	0.41*	1.27**	0.84**	0.44*	1.38	-0.29	-0.6	0.75**	-0.25	0.44	-0.60	0.40
あきたこまち	0.80**	1.33**	0.47*	0.75**	1.75	-0.21	-0.4	0.30*	-0.47	0.48	0.34	0.53
むつほまれ	-0.21	0.94**	-0.14	0.03	0.88	-1.08**	-0.8	0.00	-0.67*	-0.12	-0.58	-0.37
キヨニシキ	0.50**	1.20**	0.27	0.50**	1.06	-0.41**	-0.1	0.21	-0.39	0.32	-0.41	-0.11
はなの舞	0.56**	1.35**	0.79**	0.87**	1.31	-0.43*	-0.1	0.41**	-0.73**	0.45	-0.17	0.41
アキヒカリ	0.32*	1.29**	0.38	0.19	1.38	-0.68*	-0.4	-0.42**	-0.73**	0.15	-1.06	-0.44
たかねみのり	0.06	0.93**	0.36*	0.15	1.13	-0.49**	-0.2	0.11	-0.80**	0.14	-1.26	-0.25
トヨニシキ	-0.27*	0.87**	0.22	0.07	0.56	-0.80**	-1.0	-0.22	-0.69**	-0.14	-0.57	-0.44
つがるおとめ	0.63**	1.29**	0.27	0.37*	1.19	-0.30	0.5	0.30	-0.80**	0.38	-0.18	0.10
ひとめぼれ	0.54**	1.53**	0.94**	0.34	1.25	-0.23	-0.3	0.88**	-0.39	0.51	0.76	0.90
日本晴	-0.55**	0.80**	0.11	-0.58**	0.31	-0.77**	-1.0	-0.80**	-1.00**	-0.39	-0.98	-0.60
コシヒカリ	0.57**	1.53**	0.51*	0.61**	1.63	0.05	0.1	0.77**	-0.56**	0.58	0.44	0.28
基準品種	つがるおとめ	まいひめ	たかねみのり	ササニシキ	チヨホナミ	あきたこまち	ササニシキ	チヨニシキ	あきたこまち			
評価階級		-3~3	-3~3	-5~5	-5~5	-3~3	-3~3	-3~3				
反復	2		2	2		2		2				

基準品種はそれぞれの試験地で生産されたもの  
 日本晴は農研センター産、コシヒカリは北陸農試産  
 有意水準の\*\*\*は\*\*に統一した

第34表 食味連絡試験の食味順位<sup>6)</sup>

品 種	青森	藤坂	岩手	県南	古川	大曲	庄内	福島	秋田	平均	92年	91年
ササニシキ	7	5	2	5	3	4	9	2	1	4	7	3
あきたこまち	1	3	4	2	1	2	7	5	4	3	3	2
むつほまれ	10	9	12	10	10	12	10	9	6	10	7	9
キヨニシキ	6	8	8	4	7	6	3	7	2	7	6	7
はなの舞	3	3	3	1	5	6	3	4	8	4	4	3
アキヒカリ	8	5	6	8	3	9	7	11	8	8	11	10
たかねみのり	9	9	6	8	7	8	5	8	10	8	12	8
トヨニシキ	11	11	10	10	11	10	11	10	6	10	7	10
つがるおとめ	2	5	8	6	7	4	1	5	10	6	4	6
ひとめぼれ	3	1	1	6	5	2	6	1	2	2	1	1
日本晴	12	12	11	12	12	10	11	12	12	12	10	12
コシヒカリ	3	1	4	3	2	1	2	2	5	1	2	5

差が小さい場合（概ね0.05～0.10以下、変異幅を考慮）は同じ順位にした。

※大曲産（コシヒカリは北陸農試、日本晴は農研センター産）ということを前提にして、3年間の試験結果から検定品種の食味の順位付けを行えば、①ひとめぼれ、あきたこまち、コシヒカリ、②ササニシキ、はなの舞、つがるおとめ、③キヨニシキ、④むつほまれ、たかねみのり、トヨニシキ、アキヒカリ、⑤日本晴ということになりそうです。

第35表 福島県農業試験場における成績

生産地 及び年次	供試品種	外 観	香 り	味	粘 り	硬 さ	総 合	基準品種 パネラー等
福島農試 1989	東北143号	0.96	0.79	1.00	0.79	0.00	1.04	1989年12月21日
	ササニシキ	0.21	-0.04	0.50	0.42	0.71	0.46	チヨニシキ
	コシヒカリ	0.54	0.42	0.38	0.56	0.08	0.50	農試職員24名
福島農試 1989	東北143号	0.76	0.41	0.47	0.47	0.18	0.71	1990年1月28日
	ササニシキ	0.59	0.29	0.35	0.47	-0.59	0.53	トヨニシキ
福島農試 1990	東北143号	0.47	0.53	0.67	1.20	-0.87	0.87	1991年1月16日
	コシヒカリ	0.27	0.20	0.53	0.80	-0.27	0.73	トヨニシキ
	ササニシキ	0.60	0.27	0.60	0.60	0.67	0.67	農試職員15名
福島農試 1990	東北143号	1.05	0.76	0.71	0.71	0.19	1.10	1991年1月23日
	コシヒカリ	0.71	0.43	0.52	0.71	-0.05	0.86	チヨニシキ
	初 星	0.71	0.00	0.33	0.10	0.29	0.52	農試職員21名
平 均	東北143号	0.73	0.58	0.71	0.82	-0.23	0.87	3回平均
	ササニシキ	0.47	0.17	0.48	0.50	0.26	0.55	
	東北143号	0.71	0.69	0.79	0.90	-0.23	1.00	3回平均
	コシヒカリ	0.51	0.36	0.48	0.69	0.06	0.70	

概評：東北143号の食味はササニシキ、コシヒカリより外観、香り、味が優れ、軟らかく粘りが強く、総合評価も上回りササニシキ以上の良食味と評価された。

4) テクスチャー分析

第36表 テクスチャー分析 (岩手県農業試験場県南分場における成績、1990年)

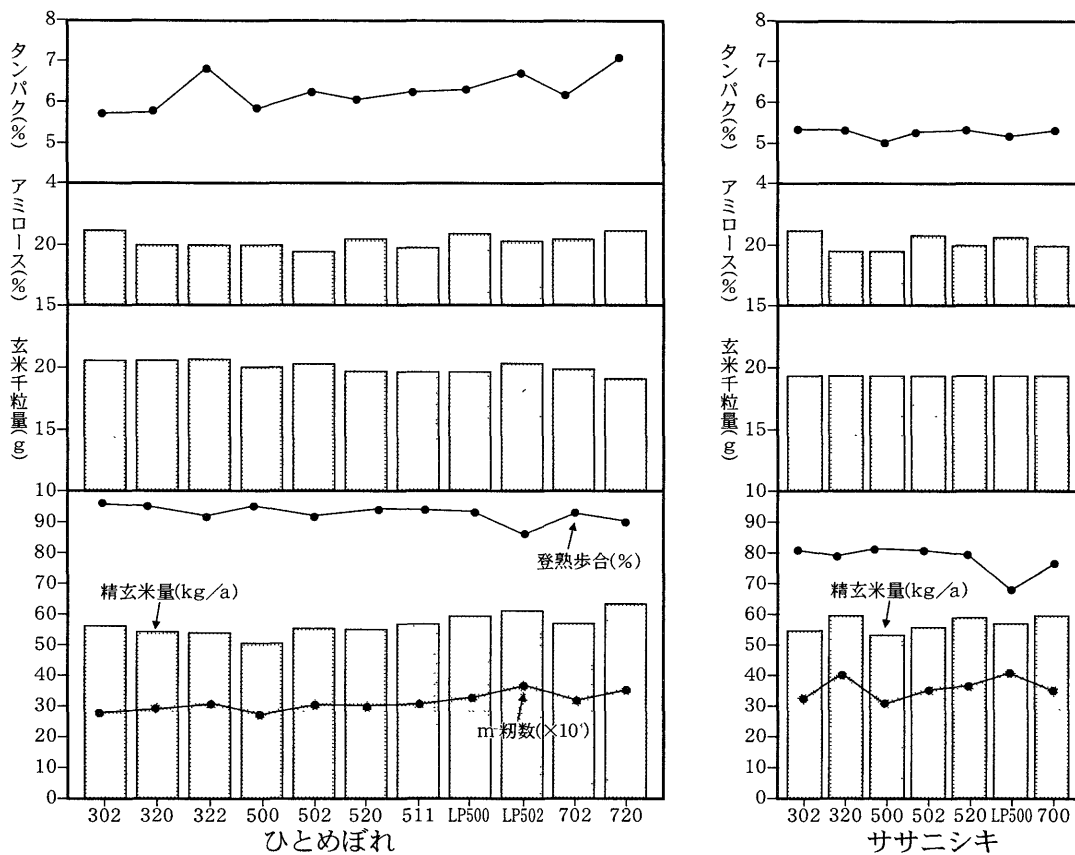
施肥	系統名 または 品種名	搗精歩合 (%)	テクスチャー値 (粘弾性)		
			硬さ (H)	付着性 (-H)	H/-H
標肥	東北143号	90.9	76.1	1.00	76.1
	ササニシキ	90.3	83.9	0.84	99.9
	チヨホナミ	90.1	86.3	0.71	121.5
	あきたこまち	90.6	91.1	0.76	119.9
多肥	東北143号	90.8	80.6	0.85	94.8
	ササニシキ	90.6	82.0	0.81	101.2
	チヨホナミ	90.0	101.8	0.79	128.9
	あきたこまち	90.8	86.5	0.83	104.2

注1) テクスチャー (粘弾性) はレオロメーター (岩手農試本場) で分析。  
 2) 奨励本試験1990年産米を供試。  
 3) 硬さ (H) は小、付着性 (-H) は大、H/-H (硬さ/付着性) は小さい値ほど良食味。

概評: 東北143号はササニシキに比べ、炊飯米の硬さ (H) は小さく、付着性 (-H) は大きく、H/-Hが小さい。

5) 食味成分分析

平成3年 岩手農試県南分場 (注: 区名は基・効・減のN量)



第9図 施肥量と食味成分<sup>7)</sup>

第37表 ふるい目別品質・たんぱく含有率<sup>8)</sup>

(平成4年 宮城農業センター)

品 種	施肥 別	ふるい 目別 (mm)	整粒 (%)			被害粒 (%)								収量 比率 (%)	玄米 白度	白米 白度	搗精 歩合 (%)	タンパク 含有率 (%)	
			完全 米	活着 米	計	胴割 米	発芽 米	着色 米	青未 熟米	乳白 米	腹白 米	心白 米	奇形 米						その 他
ひとめぼれ	標肥	1.7	92.3	4.9	97.2	0.0	0.6	0.0	1.2	0.3	0.0	0.0	0.6	0.1	100	17	32	91	7.6
		1.8	92.4	5.0	97.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	99	17	33	91	7.6
		1.9	93.4	5.1	98.5	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.2	91	17	33	91	7.6
		2.0	95.7	2.6	98.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.9	67	17	34	91	7.5
	多肥	1.7	95.2	2.4	97.5	0.0	0.4	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.4	1.0	100	17	31	92	7.9
		1.8	95.3	2.3	97.6	0.0	0.4	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	99	17	32	92	8
		1.9	95.7	2.5	98.2	0.0	0.6	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	92	17	33	91	7.9
		2.0	98.0	0.8	98.8	0.2	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	72	17	33	91	7.8
ササニシキ	標肥	1.7	89.1	0.6	89.7	0.0	3.5	0.0	1.8	0.1	0.3	0.3	1.0	3.2	100	17	36	88	7.9
		1.8	92.4	1.2	93.7	0.5	2.3	0.0	0.9	0.3	0.3	0.0	1.0	1.5	99	17	36	88	7.9
		1.9	94.5	0.5	95.0	0.3	3.4	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.2	0.6	90	17	37	88	7.8
		2.0	95.5	0.7	96.2	0.2	2.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.8	65	17	37	88	7.8
	多肥	1.7	76.7	6.2	82.9	0.4	8.4	0.6	4.1	0.1	0.3	0.1	0.4	2.7	100	18	34	90	7.8
		1.8	80.6	7.2	87.9	0.1	6.4	0.1	1.8	0.0	0.3	0.0	0.8	2.5	98	18	35	90	7.8
		1.9	82.8	7.7	90.4	0.0	7.1	0.7	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.1	85	18	36	90	7.7
		2.0	85.0	6.4	91.5	0.0	6.8	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.3	56	18	36	90	7.7

# 水稻新奨励品種「ひとめぼれ」



子 実



上側は玄米、下側は籾を示す。

## VI 摘 要

米の需給バランスは供給過剰にあり、生産調整が実施されている。本県産米においても売れる米を積極的に作付けし、その評価を高めなければならない。ひとめぼれの奨励品種採用は、あきたこまちに偏重した作付けを是正し、作業競合の回避、気象災害への危険分散を図り、ササニシキの栽培の困難さを補うものである。

本県の良食味品種であるあきたこまち、ササニシキに、新たにひとめぼれを良食味品種として加えることは、多様な消費者嗜好へ対応した販売を確立するうえでも不可避である。

ひとめぼれの特性は概ね次のとおりである。

1) 中晩生のやや長稈偏穂数型品種であり、ササニシキより米質が優れ、安定した良質米生産が期待できる。

2) 玄米の粒径はササニシキより大きく、玄米千粒重はササニシキより重い。

3) 稈質はあきたこまち程度で、ササニシキに比べて明らかに倒伏抵抗性は強く、安全性が高い。

4) 食味はあきたこまち、ササニシキとともに良好である。

5) いもち耐病性は穂いもちがササニシキよりやや強く、あきたこまち並の「やや弱」である。障害型耐冷性はササニシキより明らかに強く「極強」である。

## 引 用 文 献

- 1) 宮城県古川農業試験場 (1991) 水稲新品種決定に関する参考成績書 東北143号
- 2) 佐々木ほか (1993) 水稲新品種「ひとめぼれ」について 宮城県古川農業試験場研究報告第2号
- 3) 秋田県農業試験場 (1988、89、90、91、92、93) 水稲品種に関する試験成績書
- 4) 秋田県農業試験場 (1989、90、91、92) 水稲育種に関する試験成績
- 5) 東北農業試験場 (1991、92、93、94) 東北地域水稲品種・系統検討会資料
- 6) 東北農業試験場水田利用部稲育種研究室 (1993) 東北地域主要品種 (大曲産) 食味連絡試

- 験食味総合評価の取りまとめ
- 7) 岩手県農業試験場県南分場 (1992) 良質・良食味米の品質向上技術の確立 平成3年度東北農業試験研究成績・計画概要集 (土壌肥料)
- 8) 宮城県農業センター農産部稲作科 (1992) うまい米・宮城米の品質収量水準向上と安定化試験 平成3年度東北農業試験研究成績・計画概要集
- 9) 秋田県農業試験場稲作部 (1996) ひとめぼれに関する参考成績・資料
- 10) 宮川ほか (1997) ひとめぼれの栽培法と生育診断 秋田県農業試験場研究時報第37号

## Summary

### New Recommended Rice Cultivar "HITOMEBORE"

Hitomebore was bred at Miyagi Prefectural Furukawa Agricultural Experiment Station in 1991, and was released in Akita Prefecture as a recommended cultivar in 1996.

The agricultural characteristics of Hitomebore are as follows:

1. Hitomebore is medium to late in heading and maturity at Akita. Culm length is moderately long and plant type belongs to partial panicle number type.
2. Visual grain quality is superior to that of Sasanishiki. Eating quality is equal to that of Akitakomachi and Sasanishiki.
3. Resistance to lodging is evidently superior to that of Sasanishiki.
4. Resistance to blast disease in leaf and neck infection is equal to that of Akitakomachi, and that is superior to that of Sasanishiki. Resistance to cool temperature induced sterility is evidently superior to that of Sasanishiki.